

ボランティアの
編集委員が
つくっています



バックナンバーをWebにて公開中

芝情報誌

検索

SHIBA-TAG

しばタグ

ちいばす
散歩

69-2、75-2 芝園橋 / 8 芝三丁目北

銭湯と薩摩屋敷の跡地探訪



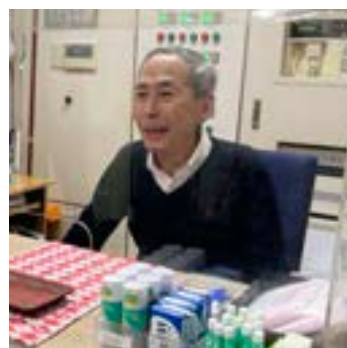
女湯の銭湯絵(レインボーブリッジの夕焼け)



男湯の銭湯絵(レインボーブリッジの朝焼け)



脱衣室、銭湯はランナーの利用も多い



施設長の相坂晃男さん(受付にて)



1階は受付、2階は女湯、3階は男湯、4階は休憩室
休憩室は入浴後の待合せ場所としても活用

今号の「ちいばす散歩」は芝二、三、五丁目界限。区立公衆浴場(銭湯)に立ち寄り、薩摩屋敷跡地を巡ります。江戸時代からのこる曲がり道を経て、散策路「芝さつまの道」へ。同屋敷の痕跡を探しながら土地の記憶を辿ってみませんか。

区立公衆浴場「ふれあいの湯」

散歩のスタートは将監橋近くの「ふれあいの湯」です。区内の銭湯は昭和40年代をピークに減少が続きました。平成7年(1995)、銭湯空白地帯のうち特に芝地区からの強い要望で開設されたのが区立公衆浴場「ふれあいの湯」です。

浴槽の温度は少々熱めの41.5度。冬は芯から

体が温まり湯冷めをしないそうです。オープン以来、「ふれあいの湯」を切り盛りしているのが施設長・相坂晃男さん。入浴後「気持ちよかったよ」の言葉と、初来店のお客さまがリピーターになった時が一番の励みになるとのこと。

28年間で最も忙しかったのは東日本大震災後の約1カ月間。会社にとどまり復旧にあたるサラリーマンが連日訪れたそうです。銭湯は人々が集う場であるとともに、防災拠点としての機能を併せ持つなど、地域になくてはならない存在です。また、しょうぶ湯(こどもの日)やゆず湯(冬至)など日本の伝統行事・文化の継承の場にもなっています。(2面へ続く)



下駄箱の木札

INFORMATION

区立公衆浴場「ふれあいの湯」
芝2-2-18 TEL 03-5442-2639
<https://www.city.minato.tokyo.jp/shisetsu/sonota/koshuyokujo/01.html>



よみがえる土地の記憶、薩摩の七曲り・芝さつまの道

薩摩の七曲り

芝二丁目から五丁目一帯には幕末・維新の歴史に刻まれる鳥羽伏見の戦いや薩摩屋敷焼き討ち事件の舞台となった薩摩藩島津家の屋敷がありました。

江戸切絵図の薩摩屋敷・西応寺の境にあるクランク状に折れ曲がる道が、幕末の志士達も行き来したであろう「薩摩の七曲り」です。芝商店街から七曲り(ルートの一部)を進み、芝さつまの道を巡ります。



井戸をむすぶ水路の形もユニーク、排水溝も十文字



薩摩屋敷の痕跡探し、芝さつまの道

七曲りを抜け日比谷通りを横断し芝三丁目に入ると、オフィス、ホテル、集合住宅などが立ち並ぶゾーンへ。ここも薩摩屋敷跡地です。

地区中央を貫くのが「芝さつまの道」と名付けられた散策路です。道幅・約30m、長さ・約150mに及ぶ広々とした空間には水路で結ばれた3つの井戸、島津家の家紋「丸十」をモチーフにした車止め、屋敷跡をイメージしたオブジェなどが点在しています。

現代によみがえった薩摩屋敷の痕跡をそぞろ歩きをしながら探索してみたいいかがでしょうか。



現代にのこる江戸時代の道「薩摩の七曲り」



薩摩屋敷跡標柱(芝五丁目)



路面に刻まれた伝統的文様探しもまた一興



『芝高輪辺絵図(部分)』薩摩屋敷と西応寺の境が「薩摩の七曲り」



車止め・オブジェに見られる「丸十」の意匠



「芝さつまの道」説明板

骨は語る、豚肉と鹿児島県

写真は芝三丁目薩摩屋敷跡から出土したブタの骨です。出土した獣骨全体の6割がイノシシ、ブタの骨でした。肉食タブーの江戸時代、薩摩屋敷では獣肉を食していたようです。

豚の飼養頭数日本一を誇る鹿児島県。かごしま黒豚のルーツは江戸初期、島津家久が琉球より豚を移入して始まったともいわれています。



出土したブタの頭蓋骨・下顎骨

その後、薩摩屋敷は・・・

農牧業の近代化に着手した明治政府は明治10年(1877)、薩摩屋敷跡地(現芝三丁目、五丁目)に「三田育種場」を設立しました。初代場長は薩摩藩出身の官僚・前田正名。育種場では農産物の栽培、牛・馬・羊・豚などの飼育・種付け、農機具の改良などが行われました。

明治時代出版された『舶来果樹要覧』には、育種場で栽培されたイチゴ、リンゴ、ブドウ、モモなど数百種の果樹が掲載されています。

場内には競馬場もあり、多くの観客を集めたそうですが、明治19年(1886)に民間に払い下げられた後は工場、住宅になりました。



『舶来果樹要覧』(1884)表紙



三田育種場と苗圃、背後に蒸気機関車と水平線が見える

取材・文・写真:土岐 恵子

INFORMATION

薩摩の七曲り 芝二丁目
芝さつまの道 芝三丁目

●資料・写真提供:『芝高輪辺絵図(部分)』(国立国会図書館蔵)／ブタの頭蓋骨・下顎骨、『舶来果樹要覧』(港区立郷土歴史館蔵)
●参考:鹿児島県ウェブサイト／『港区史』近代上(港区)／『江戸動物図鑑』『資料館だより』69号(港区立郷土資料館・現港区立郷土歴史館) ●協力:港区立郷土歴史館

まるで我が家のリビング

ご近所ラボ新橋

自分の心とからだ対話する「Yogaラボ」

今年から椅子を使ったYoga教室がスタートしました。キャリア20年という企画者の青山美香さん。インド伝来のYogaを、広いマットの上ではなく、少しのスペースで椅子を使って行うスタイルを確立しました。

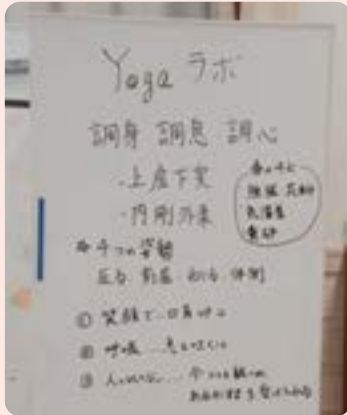
毎回本日のコンセプトを書き、参加者とシェアします。「自分の心とからだの状態を知ること、より心地よく生きる!」をミッションにしているそう。「今の幸せに気づくことで、笑顔あふれる毎日を送れるようになってもらいたいです」と言うのが、青山さんのメッセージです。

はじめに目を閉じて、今日の自分の呼吸を観察し、次にひざや腰が痛い、肩こりがひどいなど、参加者たちの状態をヒアリングしながら、無理のないポーズをレクチャーします。

高齢や更年期の方、また子育て中の方でも受け入れやすいように教えてくれます。だんだん節々が軽くなってきたという参加者もいました。

「地域の人たちと交流したい」との思いから、参加しやすいこのようなYogaを考えました。教えるだけの一方通行ではなく、参加者たちとシェアしながらお話するののでいろいろなことを教わっています」と、青山さん。Yogaによって人生が救われたそうです。

笑顔で口角を上げ、鼻で呼吸をする



ホワイトボードに本日のポイントが掲示される

新橋で運だめし!

～新橋街ガチャ～



いまはラビスタ新橋と港区役所内ローンに設置中

「ガチャ」とは、昭和のころ、駄菓子屋や文房具屋の軒先に置いてあった、子ども向けのカプセル入りおもちゃの販売機。「ガチャガチャ」「ガチャポン」など呼び名もさまざまですが、一般的にはカプセルトイと呼ばれています。

子どものころ、スーパーカーやキャラクターの消しゴム集めに夢中になった人もいます。最近はおもちゃの種類やコンセプトも多様化。今や子どもだけでなく大人もハマリ、ガチャ専門店もあるほどです。昨年10月、新橋にも地域の魅力満載の「ご当地ガチャ」が登場しています。

街ガチャに挑戦!



ビールジョッキを持った新橋のおじさん

私も「新橋街ガチャ」に挑戦。硬貨を投入してレバーを回すと・・・出てきたのは「新橋おじさん」のキーホルダー。これが新橋サ

ふらりと
お立ち寄りください!

完全呼吸法(腹式呼吸、胸式呼吸、鎖骨式呼吸)がポイント。参加者は呼吸を意識しながらおなかを動かすと、無理をせず、ケガもなくなるそうです。「他者とのコミュニケーションも大切ですが、人と比べない自分との対話も重要なんです。あるがままの自分を受け入れ、感謝してあげられるよう、私も心掛けています。」

最後は瞑想して、ティンシャ(チベットの楽器)がチリーンと響くと、終わりの合図です。ここには、癒しの空間がありました。



完全呼吸法は呼吸を長くして、自律神経を整える



英雄のポーズは足腰を強くして気分がupし、やる気が出る



腰痛や肩こりを和らげるYogaの基本的猫ポーズ



姿勢がよくなるトレーニング

INFORMATION

ご近所ラボ新橋 新橋6-4-2 きらきらプラザ新橋1階
TEL 03-6459-0789 MAIL lab@gokinjo-i.jp
http://lab.gokinjo-i.jp



取材・文:千葉 みな子



キーホルダー製作のために、多くの交渉が必要でした。また売上金の一部は社会福祉協議会に寄付されています。

新たなラインナップも

そして、「新橋街ガチャ」に新作が加わりました。その名も「新橋親柱」。かつて虎ノ門から新橋、浜離宮を経て東京湾に注いでいた汐留川に、今の新橋の地名の由来である「新橋」がありました。昭和30年代に大部分が埋め立てられ、「新橋」も姿を消しましたが、その親柱(橋などの両端に立つ太い柱)の1本が、今も中央通りと高速道路が交差する新橋一丁目の路上にあり、港区文化財に登録されています。

「新橋街ガチャ」は今後、地域のイベントにも設置される予定です。キーホルダーを片手に新橋を散策するのも新しい楽しみ方ですね。



新たにラインナップされた「新橋親柱」の出来上がりにご満悦な前田さん

取材・文:菊池 弓可



百年の歴史を誇る、こだわりの「西島眼鏡店」

木づくりの建物

「ほお杖工法」を採用した店舗は、天井から屋根型に斜めに配置されたほお杖材が特徴的です。建築家と相談し、3代目店主・西島達志さんのこだわりから木をせたくに使っています。屋根型のデザイン（人）は、初代店舗にも用いられていたものです。

店内のレイアウトは週ごとにテーマを変えています。お客さまからのメッセージ、感謝の言葉が記されているカード、顧客のお子さまの手作りのお人形など、人々とのつながりを大切にする達志さんのお人柄があふれる品々が優しく出迎えてくれます。お客さまと達志さんの心の交流が、店内の随所に見受けられます。



柱がなく教会風の雰囲気が漂う「ほお杖工法」の店内

眼鏡のフレームに 楽しいコメント

商品のフレーム一つひとつには達志さん自ら手書きのメッセージが付けられています。最初はフレームの説明を書いていたが今では使っていただきたい方を想定してコメントを書いています。「おひげの方にはびったり」など、楽しいコメントもあります。



「酒落た会話」「かわいいから好き」などのコメントが付いている

3代続く西島眼鏡店とは？

達志さんの祖父・西島邦衛は17歳で熱海市の網代から上京し、大正8年（1919）、20代半ばで

虎ノ門交差点から桜田通りを神谷町方面に向かい、一つ目の信号を右折すると角から3軒目に木造の建物が見えてきます。休業日は木製のよい戸になっています。

取材・文：伊藤 早苗



初代西島邦衛、「K.NISHIJIMA OPTICAL.co.」の切り文字

西島眼鏡店のポリシー

達志さんの眼鏡に対する考えは「高い技術性」「ファッション性」を重視することは言うまでもなく、お客さまとともに作り上げることにあります。人とのつながりを大切にしているため、お客さまには納得いくように、一人に2時間以上かけて選んで差し上げています。それは「似合う眼鏡」「ずれない眼鏡」を作り、お客さまの笑顔を作り出すということにつきます。今、西島眼鏡店はこの段階にきているのではと、感慨深げに話していました。

現在、104年というお店の歴史を背負い、脈々と商売を続けている西島眼鏡店。人とのつながりを大切にする達志さんの熱い思いをお聞きしたひとときでした。



手作りの「100Nen倶楽部通信」、奥さまの手書きの温かみのある記事

INFORMATION

西島眼鏡店 虎ノ門2-5-2
TEL 03-6205-4050
営業日 火～土(日・月・祝休み)
営業時間 11:00～18:00(火～金)
11:00～17:00(土)
<https://www.opt-nishijima.com/>



西島眼鏡店
ホームページ

あしたを夢見る

キッズ みらい ルポ

芝消防署からのあつ～い、あつ～いお願い

家庭で起きる発火事故を未然に防ごう!!

子どもたちを巻き込む発火事故が増えています。これをみんなに知らせるために、急いで芝消防署の角井さんのところへ、お話を伺いに行きました。取材・文：竹内 哲子 撮影：景山 潔



お話をしてくださった角井さん

こ、こんなところで！



タコ足配線も危ないよ



ケーブルをグルグル巻きにしている？



コンセントの間にものを入れない！ほこりもNG！

ゲームやスマホを充電するとき、コンセントの間に何か挟まったりすると発火することがあるんだって！

ケーブルをグルグル巻きにして使用するのも危険！！

それにテーブルタップもタコ足配線にすると大変危険！タコ足でもタコみたににっこりしないしね。



電子レンジで加熱しすぎると爆発するよ



出典：東京消防庁
YouTube公式チャンネル
<https://youtu.be/AddskNtukKA>

みんなは芝消防署を見たことはある？ 日々24時間わたしたちを守っている消防署の皆さんのおかげで、日々の安心と勇気をもらっています。本当にありがとうございます。

新橋の醸造所 新しい文化をつくるクラフトビール



新橋と言えば、SL広場とサラリーマンの街のイメージがありませんか？ そんな新橋像を覆し、このエリアを「奥新橋」として盛り上げる醸造所「KUNISAWA BREWING Co.」のこだわりをご紹介します。

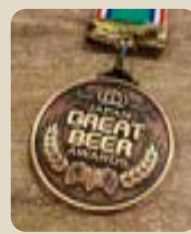


新橋だからこそ飲んで欲しい ラガービールの誕生

代表の國澤良祐さんは、南米、アメリカ滞在中に体験したビール造りをきっかけに、30年前から「いつか新橋に醸造所をつくりたい」と思い描いていたそうです。國澤さんが代表を務める(株)河内屋は、江戸時代に海運業や馬具商、瀬戸物や炭の仲買人などさまざまな商いをしており、戦後、活字製造から総合印刷社を立ち上げました。代々、クラフトマンシップ(=職人の技巧)を表現する商いを続ける家系に育った國澤さん。印刷業とともに、醸造所を手掛けるという新しいビジ



ネスを展開し、新橋のラガービール「SHIMBASHI CLASSIC LAGER」をついに完成させます。令和5年(2023)2月には「グレートビアアワード」ラガー部門で銅メダルを受賞しました。



新橋のアーツ&カルチャーの 発信基地

醸造所のシンボルは、建物1階の通りに面したガラス越しのラガー専用の横型タンク。この横型タンクこそが、ビールと酵母が沈殿しやすく、酵母への負担を減らし熟成に良いという特長があるそうです。これはヨーロッパの伝統製法ですが、日本ではなかなか



が見ることが珍しいもの。このタンクでつくられたこだわりの熟成の「キレ」と、無濾過ならではの「豊かな風味」を2階の店内で楽しむことができます。そして実はこの2階のお店では、世界20ヵ国以上で愛用される文具ブランド「KUNISAWA」の商品を販売しているのです。ラガー好きのために誕生した「至高の一杯」を、知的な時間をとともにお過ごしください。



ロゴに使われているハ咫鳥の由来

日本神話に登場する三本足のカラス。これには未来を明るく照らし、世界をけん引していくビジネスパーソンの象徴とともに、これまでの新橋の親父のイメージを変えるという裏コンセプトの意味が込められているのです。

取材・文：尹 貴玲

INFORMATION

KUNISAWA BREWING Co.
新橋5-31-7 Kビルディング 2F
TEL 03-3431-8380
平日 17:30～22:30
土曜 15:00～21:00
日祝 15:00～20:00



お芝の老舗

「日本の菓子王」と呼ばれた
森永太郎

＝「森永製菓株式会社」＝

6月10日はミルクキャラメルの日と定める森永製菓。大正2年(1913)6月10日、ミルクキャラメルが誕生してから今年で110周年を迎えます。パッケージに記された「滋養豊富・風味絶佳」は、創業者・森永太郎の「日本の人々に栄養価の高いおいしい西洋菓子を提供したい」という想いが込められています。



創業者の森永太郎
(国立国会図書館蔵)

西洋菓子のパイオニア 森永太郎

「日本の菓子王」と呼ばれた太郎。森永西洋菓子製造所を創業したのは、鉄道や電気など、西洋の文化や技術を取り入れ、日本が近代化を歩み始めた明治32年(1899)。

太郎は江戸時代の慶応元年(1865)、唐津藩伊万里(現在の佐賀県伊万里市)の陶器問屋兼網元の家に生まれました。幼い頃に父親が病死し、母親とも生き別れます。陶器商を営む伯父、山崎文左衛門に引き取られ「誠実な商売」の精神を叩き込まれました。

明治23年(1890)単身で渡米し、陶器の販売を試みますが困難が続きます。

「日本ではまだ多くない西洋菓子の製造を手掛けた」と自活の道を開くべく、菓子工場で修行をはじめます。努力と忍耐を続け、西洋菓子製造技術を学んだ後、明治32年(1899)帰国。

森永西洋菓子製造所として、わずか2坪の作業所兼店舗でマシュマロ製造からスタートしました。

開店早々、東京の一流菓子店を訪ね歩くも、全く相手にされない日々が続きました。そのうち駐日米国公使夫人らの目に留まり、気に入られます。また銀座のパン屋や菓子屋でも外国から西洋菓子を仕入れて売り出すようになりました。時代が太郎に追いついたのです。



溜池の表通りに移転した
明治34年(1901)頃



森永製菓はここから始まった
マシュマロ(1899年)

森永製菓の代名詞・
ミルクキャラメル(1913年)

全国に森永製菓の名を知らしめた
チョコレートクリーム(1899年)

エンゼルマークは
「誠実な商売」がモットー

マシュマロやキャンディを売る太郎の店はまたたく間に注目されるようになり、作業場は広がります。しかし、砂糖などの原料不足など苦労が絶えませんでした。そんな太郎を支えたのが、貿易商の経験を持つ松崎半三郎です。



太郎(左)と半三郎

太郎が菓子の製造に専念し、半三郎が営業を担当し、従業員は家柄などではなく人物本位で採用しました。松崎の貢献により、原料不足は解消。製造機械を輸入し、大量生産を実現します。そして明治43年(1910)、森永商店は株式会社になり、従業員は150人をを超えるまでに成長しました。衛生的な作業服や労働時間管理などを進め、森永はさらに発展していきます。次々にヒット商品を送り出し、とくにミルクキャラメルは主力商品に成長。どんなに会社が大きくなっても、太郎は幼い頃に学んだ「誠実な商売」を忘れることはありませんでした。

大正12年(1923)、関東大震災が発生。幸いにも損害軽微だった森永製菓は、いち早く被災者救援活動に乗り出し、ミルクを約30万人に無料配布。ビスケットやミルクキャラメルを公園で配布したり、乳幼児を抱える母親にはミルクを配るなど、太郎と半三郎、そして社員総出で不眠不休の被災者救済に動きました。

こうした行動がたくさんの子どもたちの命を守り、未来へつないだのです。「栄養があつておいしいお菓子を子どもたちに届けたい」太郎の生涯を通じたこの思いは、天使のエンゼルマークとなって、時代を超えて受け継がれ、子どもたちに笑顔を届けてきました。

昭和12年(1937)、太郎は71歳で世を去ります。最後の言葉は「困っているひとがいたら助けあげなさい」だったとか。



マシュマロが「エンゼルフード」と呼ばれることにヒントを得て考えられたエンゼルマーク(1905年商標登録)。誕生以来6回デザインが変遷し、現在も使われています



森永号の訪問飛行:昭和6年(1931)
6月末から10月まで、九州から北海道に至る主要都市を空から訪問。その飛行距離は、12,000kmに及びました

菓子をを通して未来につなぐ
老舗企業

その後、日中戦争から太平洋戦争と続く時代は、菓子類が一般市場では手に入りにくくなり、自由に購入できるようになったのは、戦争が終結してから5年後の昭和25年(1950)のことでした。

戦後20年、日本は高度経済成長に入り、昭和、平成、令和と、さまざまなお菓子が誕生し、いつでも自分好みのお菓子を選ぶことができるようになりました。



「母の日」の日本定着のきっかけの一つは森永製菓:第1回「森永母の日大会」は、昭和12年(1937)5月8・9日の両日、東京豊島園の野外ステージを舞台に開催。20万人もの母親を招待して盛大に行なわれました

森永製菓では社会貢献活動の一環として、従業員が講師となり、芝地区を含めた小学校を訪問しミルクキャラメルを題材とした工業生産を教える出張授業を行っています。工場見学に行ったような臨場感で、工業生産における工夫や努力、モノづくりへの想いを伝えています。クイズやワークショップなどのある体験型授業です。

老舗企業数が世界一の日本。これからも老舗企業が続いていくには、その時だけの商売をするのではなく、「寄り添って喜ぶ」ことを顧客や町の人々と一緒に感じられる。これが、未来につながっていくように感じました。

老舗企業が培った精神は、今までもこれからも続いていくことでしょう。



取材にご協力いただいた中島唐子さん(左)と田村和世さん

文: 早川 由紀
取材: 森 明、早川 由紀

- 資料提供 森永製菓株式会社
- 参考文献 『松崎半三郎』(電通・編) 森永製菓・刊/1964年)

INFORMATION

森永製菓株式会社 芝5-33-1
<https://www.morinaga.co.jp/>



町会自治会TOPICS

町会・自治会ってなあに?

町会・自治会は、同じ地域に住んでいる皆さんが自主的に結成し、防災・防犯、環境美化、コミュニティなど、さまざまな活動を自主的に行っている団体です。地域の行事や活動、日ごろのご近所さんとの交流が、住みよい暮らしにつながります。コロナ明けの今年は、各町会・自治会でさまざまな親睦行事が実施・予定されています。

★ 芝ざくら祭り2023

み た しん まち ちようかい
三田新町 町会

「芝桜」というと郊外の大きな公園が名所だったりしますが、実は三田新町町会の区域にある住友不動産三田ツインビル西館も芝桜の名所です。

4月23日(日)、三田新町町会は親睦行事の「芝ざくら祭り」を地元企業と一緒に開催しました。

当日は、町会手作りのフードなどが振る舞われ、訪れた地域の皆さんは思い思いに花見を楽しまれた様子。

また催し物として、ベーゴマやけん玉の「子ども昔遊び」が行われた他、三田警察署による「防犯キャンペーン」、芝消防署による「初期消火訓練」も行われました。

都心の真ん中に広がる鮮やかなピンクの絨毯、存分に春を感じられる地域行事となりました。

(三田新町町会のエリアは、三田3-4★、5、6、7★、12★、13、14(★は区域の一部)です)

町会・自治会への加入はこちらから

二次元コードをスマートフォンで読み取り、東京共同電子申請・届出サービスの「町会・自治会加入案内」のページから申請してください。後日、該当する町会・自治会または区担当者から連絡します。



お問い合わせ

芝地区総合支所協働推進課協働推進係
〒105-8511 港区芝公園1-5-25
TEL 03-3578-3123

芝の家・ちゃぶ台日誌 夏編

芝の家の新しいイベントを2つご紹介します。どちらも月に1回どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。詳細はホームページをご覧ください。

コーヒーの日

ふるまいコーヒーを始めました。
芝の家にゆかりのあるコーヒー屋さんで豆を仕入れて、ハンドドリップで淹れています。
芝の家の縁側や室内でちょっと腰掛けて一服いかがですか?
コーヒーのうんちく、おしゃべりも大歓迎です。



INFORMATION

芝の家 芝3-26-8 TEL 03-3453-0474
〈開室日時〉火～金 11:00～16:00/土* 12:00～17:00
※芝のはらっぱ活動日を除く
〈休館日〉日・月・祝 <http://www.shibanoie.net>
開室時間は変更が生じる場合もあります。
最新の情報はホームページや掲示板をご覧ください。

芝の家は、芝地区の地域事業「地域をつなぐ」交流の場づくりプロジェクトの拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」(港区新橋6-4-2)と合わせてお気軽にお立ち寄りください。

消しゴムはんこ部

「消しゴムはんこ」をご存じですか? 消しゴムといえども本格的な版を作るができます。毎回テーマを決めてみんなで楽しく、ゆるゆると消しゴムはんこを作っています。
初心者の方でも参加OKです。ご参加をお待ちしています。



駄菓子の販売もあります。
おもちゃで遊んだり、紙や布でものづくりをする方、宿題をしたり読書をする方…。
思い思いの過ごし方をしながら、ゆるやかな交流が生まれています。

文: 芝の家・芝地区総合支所協働推進課

